

COLUMN

続・鎌倉の猫事情
第二十五話

囚われの猫、ハッチは、すくすく成長しながらも複雑な表情を見せるようになってきました。あいかわらずレックスは夜明けと共に出かけて行きます。ハッチは今ももう、追いかけてはしません。あきらめたのか、何かを理解したのか、それとも興味がなくなったのか、間違っただアが開いていても一目散に出て行こうとはしないのです。私はそんなハッチを愛おしく思っています。ハッチの方はこの家に来た頃の、私と、レックスとの微かな緊張感を忘れてはいないので、私とは少し距離を持って接しています。何とかハッチの誤解を解いて気持ちを伝えようとしてきた結果、ようやく今までにはなかった甘える仕草を見せるようになってきました。このところの真剣な説得が効いて少し心を開いているのでしょうか。私がよく猫を説得するとか、喧嘩の仲裁をすると言うと、皆不思議そうに「いったい、どうやって？」と、聞きますが、これはもういつもしているようにするのです。人間の言葉でよくよく話し合うのです。真剣に。通じますよ、必ず。ちゃんと、猫の方でも何かを訴えてきます。何年前前にあちこちの人里に熊があらわれ、畑で熊に出くわして襲われたけど、投げを打って難を逃れたとか、その場合災難は熊の方だったでしょうが、色んな逸話が伝えられました。そんな話の中で圧巻だったのは、ある地方の農家のおばさんの話。一人家にいると熊がつかつかと入ってきたそうで、報道によると平屋の昔ながらの家だったようですが、その家の真ん中まで入ってきて何か捜して食べようとした熊を見つけたおばさんは、熊を前に少しもひるまず、両足を開き、ハッチと熊を真っ向から睨みつけ、「お前はこんなところで何をするか！ さっさと出て行けえ！」と、叱りつけたそうです。すると、熊はすっかり勢いを失くして、すぐごと山の方へ逃げて行ったとか。

なんとと言っても、人でも熊でも猫でも、自分の思いは、自分の言葉で伝えるのが、一番いいんです。

——to be continued



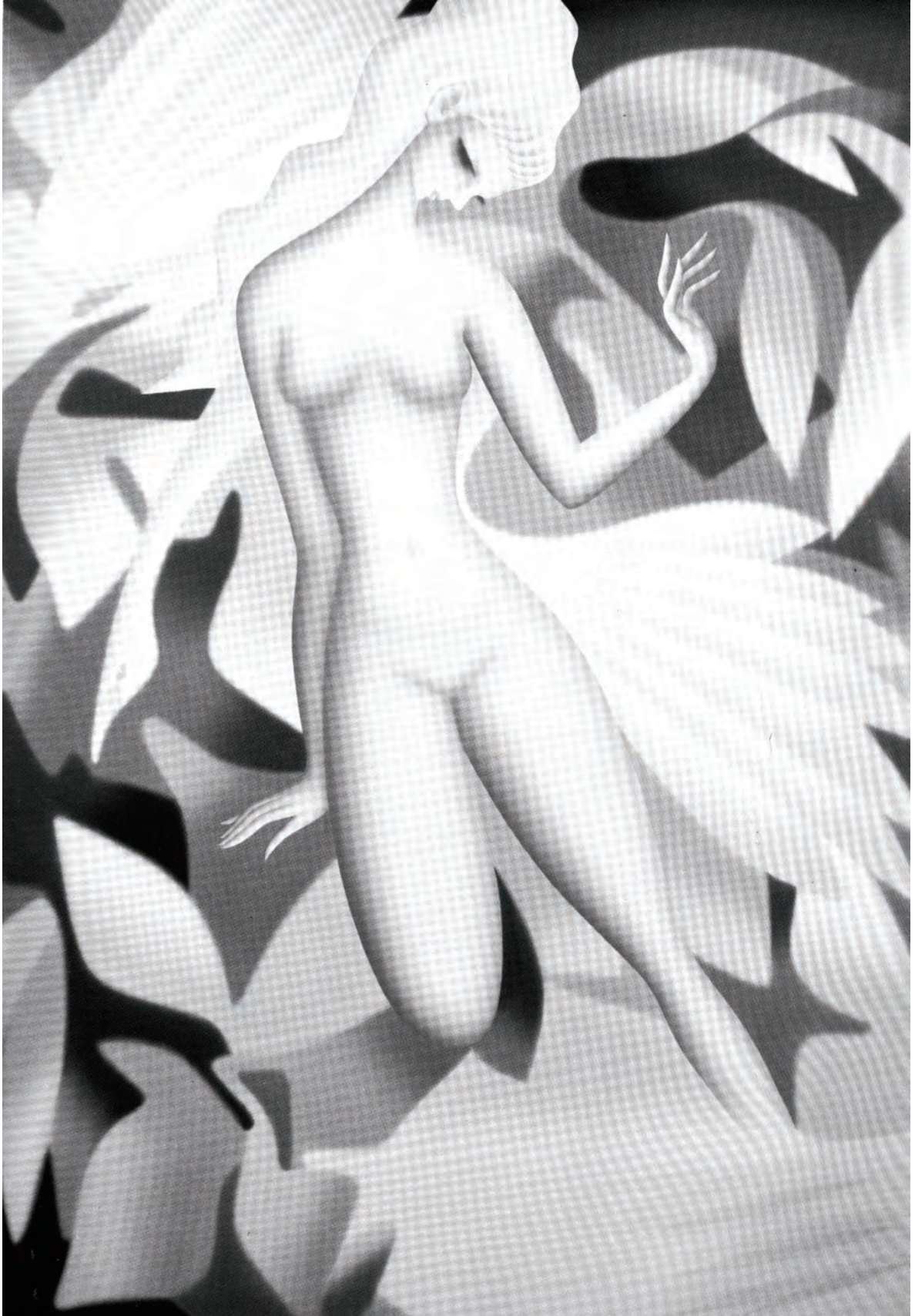
Planet

ある雪の日に

夜中から降り始めた雪がやむ兆しもなく、いつまでもしんと降っている。降り積もっていく雪は、外の世界の音をすべて吸い尽くして、静けさが部屋に満ちてくる。することもなく、思い出したように納戸の奥の小窓から庭に降る雪を見ようと入ってみると、何年も入ることのなかった納戸には、過去の匂いが漂っていた。その匂いの奥に、古い急な階段があった。そしてその下には・・・すっかり忘れていた私の隠れ家があった。階段の下の小さな三角の空間に、昔、隠れ家を作った。誰にも見られない場所、秘密の場所、私の背中からは誰からも見えない。そこは、せいっぱい部屋らしくしようとしたこの世の小さな隙間だった。私は頭を低くして、20年ぶりにその隙間にもぐりこんでみた。



そこは、ほこりっぽいような、すっぱいような変な匂いがして、温かかった。汚い三角の壁には、顔のないルネ・マグリットの写真、片方が破れて垂れ下がったレコードジャケット、建築デッサン、書きかけたメモなどが貼り付けてある。階段の裏側にあたる傾斜した天井には、何かの予定を一つ二つ印した20年前のカレンダーが貼り付けてある。古びた小さな机まで持ちこんであつた。引き出しには鉛筆や消しゴム、ノートや、三角定規などがそのまま残されている。ここに、たしかに私がいた。私は私の存在を強く感じていた。遠く消え去った過去は、主の存在が消えようと、いっこうに構わないというように確かにあつた。来るはずのないカレンダーの翌月を待つように、そのまま、世の小さな隙間は、いない主を守っていた。私は、体を縮めてその机に座り込んで、ほこりっぽく、すっぱく、温かな空気を吸い込んだ。小さな三角の空間に入り込んでさまざまな空想に浸った遠い過去の自分の温かさを感じていた。外の雪はどうしただろう？ 階段下の隙間から抜け出して、納戸の小さな窓から外を見ると、雪はやんで、辺りは一面の雪景色となっていた。その一年後、古くなった家は取り壊され、20年間隠れ家に居続けた私も、今は、もういない。



Milk Hall Times *2014*

いはらなつこ徒然 第20回

Special

洋食 New!

★★好評につき、サービス期間延長しました!

★ビーフシチュー ¥1800



柔らかく煮込んだ牛肉を、特製デミソースで仕上げました。季節の野菜の、芽キャベツやインゲンと一緒に召し上がり下さい。

パン・ライス&デザート付

★旬の魚のランチセット



¥1200

季節の新鮮な魚の燻製(主に鯖)と自家製パン・魚のディップのカナッペレモンとオリーブオイルがスモークした魚の香りを引き立てます。

SET ワインor生ビールor珈琲



ミルクホール

トピックス!

能面展示のお知らせ
大月光勲

鎌倉能面教室開講にあたり、ミルクホールにて大月光勲作の能面2点をお借りし、展示しています。

大月光勲作 小面

こおもて
能の女面の中で最も若い女性の面若く可憐な美しさを持つ
『松風』『井筒』『羽衣』など

大月光勲作 小癒見 荒彫り

こべし
この面は製作途中であるが、仕上がると、肌は濃い黄褐色、眼には大きな金環が入る。『鶺鴒』に用いられる。

鎌倉能面教室開講
のご案内

鎌倉教室3月6日開講!
光勲能面會 大月光勲

稽古場所/ ミルクホールギャラリー2階
稽古日/ 月1日木曜日 10時~13時
14時~17時

受講料/1単位5000円 終日2単位10000円

★ミルクホールギャラリー2階にて、能面教室を開講しました。募集は7名程です。

★問合せ先 詳しい資料をお送りします。
〒602-0923京都市上京区油橋詰町93-15
tel/fax 075(441)523大月光勲

★申し込み受付
ミルクホール 0467(22)1179

なんと... 大雪でしたね!!



街まで出かけてみました



チョコでも買おう



まじっ



Information

ミルクホールタイムス 総集編
「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールタイムスを1986年の創刊号より、100号までまとめた総集編です。人気連載中の「鎌倉の猫事情」が第一話から第一部の終わりまで、他にガラクタ通信、ミルクホール30年の逸話など掲載しています。
¥1500

ミルクホール
タイムス定期購読

ミルクホールタイムスは毎月25日頃定期発行しています。ご希望の方へ毎月郵送いたします。

年間購読料 ¥1500



JAZZ 2014

Milk Hall



Big Tenors

BEN WEBSTER SEXTET
CORKY CORCORAN'S COLLEGIATES
ALBERT AMMONS AND HIS RHYTHM KINGS

Maynard Ferguson-Ernest Berry Martin Randolph trumpets;
 Benny Carter-Willie Smith alto sax; Ben Webster-Corky Corcoran-Gore Ammons tenor sax;
 Gerry Higgins-Dado Marmarosa Albert Ammons piano; Allan Reuss-Ike Perkins guitar;
 John Kirby-Ed Mihalich-Israel Crosby bass; George Johnson-Nick Fatool
 Alvin Barroughs drums

Milk Hall New

春です！ 鎌倉にようやく春が来ました！

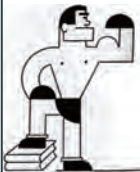
いろいろあっても、やっぱり春の兆しにはわくわくします。
というわけで、ミルクホールは営業を春夏時間に変更致します。

営業時間 平日 AM11:00~PM20:00 ラストオーダー
 土日祝 AM11:00~PM21:00 ラストオーダー

★3月は、休まず営業致します。

News from ■ ■ お帰りなさい！

ミルクホールのアルバイター木和田君の地球横断ひとり旅は、無事終わりました。アメリカ・パリ・ベルギー・・・ベルリン・ミラノ・ベネツィア・ローマ・イスタンブール・カッパドキア・トラブゾン・イラン・VAE・タイ・マレーシア・インドネシア→日本、と周って全部で12カ国だったそうです。ローマで旧友にばったり会い、トルコでは悪人達に高額な食事を払わされたりしながらも、たくさんの親切な人達に出会い、トルコ以降は、国境をバスで越えていたそうで、そこでは本当に言葉で表せない経験をしたでしょう。彼の旅の突撃キーワードは、「美味しいレストランに連れて行け！」だったそうです。イランでは3日も泊めてくれた家族がいたとか。先日ようやく帰国し、お土産を手にして現われた木和田君、なんだかとても大きくなってました。



2014年 2月某日

これでお話は終わりましたが、彼の人生の旅はこれからです。 船出、おめでとう！



榎本秀一 at
 ミルクホール

3/22

Sat.
 pm 6:30~

榎本秀一 & 上村勝正

テナーサクソ・尺八 エレクトリックベースギター

2月15日のライブは大雪の影響で中止しましたので、2月に計画していたライブを3月22日に行います。

2月15日ライブ ~はるのおと~ 曲目
 JOY SUPRING; DECEITFUL EYES;
 夜は千の眼を持つ;
 MY FUNNY VALENTINE;
 奉春; SIDE WINDER;
 ON GREEN DOLPHIN ST等々



★榎本秀一(秀水)プロフィール

1952年(昭和27年)東京都品川区生まれ。両祖父は民謡歌手鈴木正夫、尺八演奏家初代榎本秀水。1970年早稲田大学入学とともに、HIGH-SOCIETY ORCHESTRA に入団し、テナーサクソとフルートを手掛けた。以降国内有数のジャズオーケストラ・コンボに参加しつつ、自己のカルテットを主宰し、ライブハウスでの演奏、国内外へのコンサートツアー、多くのレコーディング等に携わっている。

最新CD
 「OWL in Blue」(CD)
 榎本秀一カルテット
 (アケタズディスク)

★上村勝正プロフィール

1964年横浜市生まれ
 20歳の頃、ドラマーの古澤良治郎や外山明と出会う。その後、古澤良治郎パパラッコバンド、デガショー、マルハウス等に参加。現在は、今村祐司グループ、渋谷毅オーケストラなどで活動中。榎本とはムビアンソン・ビッグバンドで共演した。

